

## Plant Science × Sustainable development goals (SDGs)

近畿大学大学院 生物理工学研究科 十川 太輔

若干 20 代の大学院生が 30 年後の植物科学について述べるのは恐れ多いが、私の意見を簡単に述べさせて頂きたい。最近、学会発表でのスライドやポスターで目にするのは、持続可能な開発目標 Sustainable Development Goals、SDGs のロゴマークである。カラフルな SDGs のロゴマークには、17 目標が記載されており、発表者は自身の研究内容について、いずれかに達成および貢献できると期待される目標のマークを載せる事が勧められている。さて皆様の研究内容は、17 目標のうちどれに当てはまるでしょうか。

話は少し後戻りするが、私は本研究室の Y グループに配属され、あるコケ精子の研究テーマを与えられてから植物の生殖に興味をもった。卵から放出される精子誘引物質の濃度勾配を精子が感知し、卵へと向かう現象は精子走化性と呼ばれる。当時私は精子走化性という名称は知っていたが、そのしくみは一部の生物でしか分かっておらず、不明な点が多数残されていた。ましてや私たちが普段目にする蘚苔類については、精子走化性をはじめ、精子誘引物質の正体、それを感知するしくみ、そして鞭毛運動への制御などの詳細は十分に分かっていない。これまでに私は、まだ多くが明らかにされていない、特にコケの精子走化性に興味をもち研究を進めてきた。もともと中学生の時から、地面を元気よく”ジメジメ”と這う蘚苔類や粘菌類といったユニークな生物が好きだったのもあるのだが。

さて今、私が行なっているコケ植物における精子走化性の研究は、SDGs における目標のどれに当てはまるかと言うと、「4：質の高い教育をみんなに」である。自身の研究は自分の興味のために、というのが根本にあるが、それを一般者にも知ってもらわなければならないと考えている。これまでに大学院のオープンラボで、一般者向けにポスター発表をさせて頂く機会があった。その際、コケ植物が動物と同様に精子と卵により受精を行う事を知らない方が多い事に気づいた。足を運んで頂いた公聴者からは”コケって、精子を出して受精するのですか!?”っと、驚いたリアクションで問われた事が印象に残っている。一般的にコケは馴染みの深い生物であるが、実際どの様に生殖を行い増殖するのか知らない方々が多い。それ以来、私は大学院生の間は自分の研究のみならず、質の高い教育を提供する、とまではいれないが、コケ植物における生殖の説明を通じて研究の面白さを少しでも知って頂こうと思った。

一般の学会では、研究者をはじめ大学教員、大学院生、学部生そして高校教員、高校生が主に参加されている。しかし、一般者にとっては参加が難しい現状であると思う。そのため、普段行われる学会中で一般者向けの公聴会コーナーやイベントを設け、植物科学や学会そのものに関心をもって頂くといいかも知れない。しかし、植物科学をライフワークとされている研究者と対話が成り立ち盛り上がるか、というリスクもある。

私は研究力に加え、広報力も大切であると思う。30 年後の植物科学について、今よりも一般者への理解および認知度が進む様、PR に貢献する形で植物科学に還元したい。10 年後迄には広報活動による基礎づくり、20 年後までには徐々に認知度を高め、30 年後迄には多くの一般者も参加可能な状態になれば良い。植物科学を SDGs に取り入れる事で、結果的に持続可能な植物科学を背負う人材育成につながると期待している。